

神無月、10月になりました。東京では金木犀が満開になり、本格的な秋の到来を告げています。

9月は台風が多く来襲し、日本全国で不順な気候が続きました。高校のなかには雨の中で文化祭や体育祭などが開催されたところも多かったと思います。この間ネットワークでは東京、札幌、名古屋、大阪と四つの部会がひらかれ、活発な活動が行われました。

10月になると、大学の後期授業が本格的に開始され、高校生は就職試験、受験勉強なども本格化します。中学校公民では経済の授業の準備もはじまるころかもしれません。

そんな中秋、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】最新活動報告

9月の活動を報告します。

【 2 】イベントカレンダー

冬の経済教室、部会の案内などを紹介します。

【 3 】授業のヒント

【 1 】最新活動報告

最新のニュース、9月に行われた活動などを報告します。

■東京部会 (No.85)を開催しました。

日時：2016年9月3日(土) 14時00分～16時30分

場所：日本大学経済学部 本館2階中会議室

参加者：16名

(1) 夏の経済教室の内容の総括が石山晴美氏（東京証券取引所）からありました。参加者数は昨年より減ったが、評価では、質の高い講義、講演、また授業の参考になる実践報告であったことが報告されました。参加者のアンケート分析を踏まえて、来年度の計画を進めてゆくことが確認されました。

(2) 9月2日の理事会で、大杉昭英理事（国立教育政策研究所）から寄せられた次期学習指導要領にむけての経済教育の課題三点が紹介されました。

一点目は、主権者教育への経済教育からの貢献で、政策を選択できる生徒の育成を目指す取り組みへの要請です。

二点目は、必修になる地理への貢献で、経済的な内容が相当含まれてゆくので、その取り組みをしてほしいという要請です。

三点目は、経済の学習でどこまで学問的な厳密さを要求してゆくのか、必要なのかの検討をしてほしいという要請です。

併せて、宮尾尊弘先生（筑波大学名誉教授）が You Tube にアップされた「ディベートの手引き」

が紹介されました。これは今月の「授業のヒント」で取り上げられています。

- (3) 実践報告は、杉浦光紀先生（東京都立秋留台高校）の「現代社会と原発」の授業が報告されました。

原発をテーマとして、シグソー学習法で学習をすすめ、全体で内容を共有したうえで、グループでの合意形成と個人で意見をまとめるという流れの授業実践です。

検討では、原発のような意見が分かれる問題をグループで合意形成をさせることへの危惧が表明されました。それに対しては、その種の問題を議論をしないのはあまりにも腰の引けた対応だという意見も出され、活発な討議がおこなわれました。意欲的な実践なので、他の部会でも紹介することになりました。

- (4) 教材の紹介が二本ありました。

一つは、杉田孝之先生（千葉県立津田沼高校）の「経済の基礎概念から設計する有権者教育」です。これは、「選挙は未来への選択」として、シルバーデモクラシーとよばれる仕組みの再編を選挙制度の改革と結びつけようとする授業案です。この授業案にもとづく公開授業が9月23日に行われるので、授業の成果等は次回以降にさらに紹介されることになりました。

もう一つは、新井の中等教育学校6年生向けの選択「政治・経済」の経済部分の授業の紹介でしたが、検討の時間をとることができませんでした。

内容の詳細は、以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo085report.pdf>

■札幌部会（No.16）を開催しました。

日時：2016年9月17日（土） 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンクセミナールーム

参加者：8名

- (1) 野間敏克先生（同志社大学）より、ネットワークの最近の活動の報告がされました。

併せて、来年1月28日に行う予定の冬の経済教室（札幌）の内容について検討が行われました。検討では、①「河原先生による中学の実践報告」②「企業から見た経済教育に関する講演」③「エコノミストによる講義を高校教師が授業で活用する取り組みの紹介」という方向でプログラムをつくる話が話し合われました。

また、理事会での大杉先生の課題に関する報告がされました。

他の部会の報告も行われ、特に、山本雅康先生（奈良学園中高）の「北海道研修旅行・十勝ファームステイ」の事前指導の資料の紹介がされました。

- (2) 山下先生（札幌市立簾舞中）より、「夏の経済教室 in 東京中学」に参加された報告及び振り返りが行われました。

- (3) 竹内先生（日高町立日高中）より、「家庭科における経済教育」の資料をもとに、家庭科の指導計画例（配当時間含む）と、教科書の紹介があり、実際に家庭科の授業で行った「価格の決まり方」についての実践報告がありました。

家庭科の教科書には、商品は品質や予算からみて適切かという視点しかないため、需要と供給によって価格が成立する仕組みを紹介しているとの竹内先生からの説明に対しては、家庭科の教科書

から授業プリントを作ると、供給の内訳の説明にしかならないので、マルクスの「労働価値説」になってしまい、人々の需要に基づく「効用価値説」的な理解ができないのではという指摘がありました。

正味1時間という制約がある中で「価格の決まり方」をどのように理解させるかは、家庭科と社会科連携という点からも今後の課題であることが確認されました。

- (4) 飯高先生（札幌市立東月寒中）より、金融広報中央委員会の金融教育指定校として、11月4日に行う公開授業の内容と方法についての相談があり、様々な提案、アドバイスがされました。内容の詳細は、以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo016report.pdf>

■名古屋部会（No.8）を開催しました。

日時：2016年9月17日（土） 15時00分～17時00分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

参加者：12名

- (1) 篠原総一代表（京都学園大学）からネットワークの最近の活動の紹介がありました。
- (2) 杉浦光紀先生（東京都立秋留台高校）より「現代社会と原発—これからの原発の話をしよう—」をテーマにした、ジグゾー学習を用いた授業実践の紹介が行われました。これは、東京部会での発表をもととした実践発表です。

検討では、原発という時事的な問題で意見が分かれるテーマであることの扱いにくさや、教員の価値観が反映されること等について話題になり、合意形成の社会的意味やその差異に注目することの必要性について活発な議論がおこなわれました。

- (3) 弓矢伸一先生（三重県立四日市商業高）より「経済理論を教えるためのイラスト教材」をテーマに、マクロ経済学の内容について、わかりやすく興味を持ちやすいイラストを用いて教える授業実践の紹介がありました。

3年生の世界史・日本史の教科書を利用して、経済発展の歴史を1ヶ月で教えるための内容と、アダム・スミスの国富論、カール・マルクスの資本論、ケインズの各種の経済理論をイラスト教材を用いてわかりやすく教える方法が示されました。

検討では、時代の変化に合わせて主流となる経済学が変化していることや、経済政策の有効性からどのような経済理論を教えるべきか等について議論が行われました。

内容の詳細は、以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya008report.pdf>

■大阪部会（No.50）を開催しました。

日時：2016年9月24日（土） 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

参加者：12名

- (1) 篠原総一代表（京都学園大学）から、最近の経済教育ネットワークの活動が報告されました。続いて12月に東京で、1月に札幌で開かれる「冬の経済教室」の内容が報告されました。また、

3月25日に予定されている年次大会におけるシンポジウムのテーマについて検討をし、18歳選挙権と主権者教育、新しい働き方と労働問題などの候補があげられました。

野間敏克先生（同志社大学）からは、札幌部会の様子が報告されました。

(2) 安野雄一先生（大阪教育大付属平野小学校）から「生産者と消費者を繋ぐ社会科学習～「工場で働く人びとの仕事」（3年生）の学習を通して～」と題する授業実践報告がありました。

小学校の教科書では、パン工場での生産、流通、スーパーでの販売などが取り上げられていますが、安野先生は、それに個人経営のパン屋との比較学習を加えて、より多様的に生産や流通の仕組みを学ばせようとしたものです。また消費者の視点も含めた授業構成になっています。

(2) 大塚雅之先生（大坂府立三国ヶ丘高校）から「ゲーム理論を用いた公害・環境問題に関する政治・経済の教材開発」という実践が報告されました。

まず公害問題の原因を考えさせ、その後、囚人のジレンマの状況が環境問題の解決を妨げることをゲーム理論の数値例で理解させる授業です。加えて最後通牒ゲームを体験させて、その上で、パリ協定の批准の是非を議論するという順に、授業は進められてゆく構成です。

検討では、ゲーム理論は経済問題を考えるうえで有効な道具になる場合もある一方、適用が不適切な問題もあるので注意すべしとの助言がありました。また、ゲーム理論の適切な活用例のリストと解説があると有用だとの要望も出されました。

内容の詳細は、以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka50report.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

* イベント予定です。

■ 冬の経済教室（東京）を開催します。（既報）

日時：2016年12月27日 13時00分～16時45分

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 東館ホール

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2016GeoFuyukeizai.pdf>

■ 冬の経済教室（札幌）を開催します。

日時：2017年1月28日 13時00分～17時00分

場所：北海道教育大学（札幌）サテライト教室

内容、参加方法が決まり次第HPに掲載いたします。

* 定例部会のお知らせです。（開催順）

■東京部会 (No.86)を開催します。

日時：2016年10月27日(火) 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部 本館2階中会議室

内容、参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo086flyer.pdf>

■大阪部会 (No.51)を開催します。

日時：2016年11月12日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト(予定)

内容、参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka51flyer.pdf>

■名古屋部会 (No.9) を開催します。

日時：2016年11月26日(土) 15時00分～17時00分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

内容、参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya009flyer.pdf>

【 3 】 授業のヒント

■アメリカでのディベート授業

ディベートは日本の教室でもかなり普及をしていますが、今回は、アメリカ発のディベート授業の紹介です。

ネットワークの宮尾尊弘先生（筑波大学名誉教授）は、現在、アメリカの南カリフォルニア大学で教鞭をとられています。そのクラスで実施したディベートをもとに『ディベートの手引き：クラスでディベートを行う方法』を You Tube にアップされました。

<https://youtu.be/4V9tIXwtypo>

このディベート授業は、昨年東京での「冬の経済教室」で宮尾先生が提案された、イシューを中心とする経済授業の一環として実施されています。

宮尾先生のディベートは5つのステップで進行します。

<ステップ1>は、イシューの設定とサイド分けです。このテーマでいえば、経済発展に人口が多い方がよいという主張をサイドA、逆に人口は少ない方がよいという主張をサイドBが行っています。

<ステップ2>は、それぞれのサイドの二人がプレゼンを行います。

<ステップ3>は、質問と応答（リバトル）の時間です。サイドAが質問しサイドBが答える、逆にサイドBが質問しサイドAが答えるという応答を行います。

<ステップ4>は、オープンディスカッションで、教室内のだれもが自由に質問できる時間です。

<ステップ5>で、全員による審判（どちらが勝ったか）と優れたディベーターの選出、自分の意見はどうなのかを書いて提出します。

このディベートテーマとなった「人口と経済発展」については、週3回ある授業のなかで取り上げたそうです。まず、第1回は人口問題の基礎知識について予めウェブにアップした講義ビデオを見てきた上でクラスで議論し、 이슈をよく理解させる。第2回にビデオにあるようなディベートを行い、さらにしめくくりの第3回でさらに人口と経済の関係を勉強させてからこの問題についてのテストをするという順番で行ったとのこと。

アメリカの大学の授業の進め方は、日本とは異なっている点もありますが、 이슈とディベートと講義を組み合わせた経済の授業の進め方は、これからの私たちの授業にヒントになると思います。

宮尾先生は、欧米の民主主義で司法が独立した国の活動になっているのに対して、日本などでは司法が行政や立法に従属しがちなのは、ディベートの重要性が真に理解されていないからとの指摘もされて、ディベートの意義を力説されています。

宮尾先生自らがかけられたイラストと解説でディベート授業の進め方がわかるこのビデオ、ぜひ参考にされるとよいと思います。（新井）

【4】編集後記（みみずのたはこと）

このところ立て続けに授業見学のチャンスがありました。中学が一つ、高校が二つです。いずれの授業も生徒との対話や質疑、グループワークを組みこんだ見事な授業でした。

感想は、生徒との関係づくりに成功していること、もう一つは「これってすでにアクティブ・ラーニングじゃない」というものでした。

アクティブ・ラーニングなどことさらカタカナを使わなくても、良心的な教師は日々取り組んでいるのだという強い印象を受けました。（新井）

登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇